

アントニオ モスケイラ氏が来日 神奈川県・長崎県・北海道が有力候補地に

既報（JIFAS NEWS102）のとおり、アントニオ モスケイラ氏は11月6日に来日され1週間の滞在期間を精力的に行動して帰途につかれました。

その間、アワビの閉鎖循環式陸上養殖の技術関係者をはじめ、有力候補地の現場視察をされ、現況の日本に最適の新デザイン構想の一端を話され、年内に完成させることを約束しております。

新デザインには技術関係者発案による、脱窒システムに画期的な新技術が組み込まれることになり、関係各位にとって朗報であり、大いに期待されるところです。即ち、生物ろ過に必要な過剤の必要がなくなるからです。

平成14年10月～16年10月までの期間、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター内で行ってきた実証試験の基本データを基に新デザインは作成されます。

その結果、稚貝の段階から出荷サイズにいたるまでパイプ内で飼育し、その後2～3ヶ月間をハイド使用による水槽内で飼育することが大きく違う点です。

その飼育方法を要約すると①30mmのアワビをハッチャリーから入手し、80mmで販売します。直径150mmを使用します。②アワビが80mmになった後、水槽内で人工飼料と併用して海草を給餌する。③飼料はアダム&アモス社の製品を使用する。

現在、モスケイラ氏はフランス国営のハッチャリー建設に関するコンサルティングも行っています。氏は海外でのコンサルに数多く携わっていますが、アメリカ、ニュージーランド、アイルランド、フランス等に比して、JIFASプロジェクトによる技術は彼らよりはるかに進んでいることを確信していると語っています。

